

医療費の3要素

・受診率は、概ね、一定期間内に医療機関にかかった人の割合を表す指標と考えることができます。ある地域で受診率が全国平均より高いということは、医療機関にかかる者の割合が高いということであり、受診率の伸びが高いということは医療機関にかかる者の割合が増えているということです。

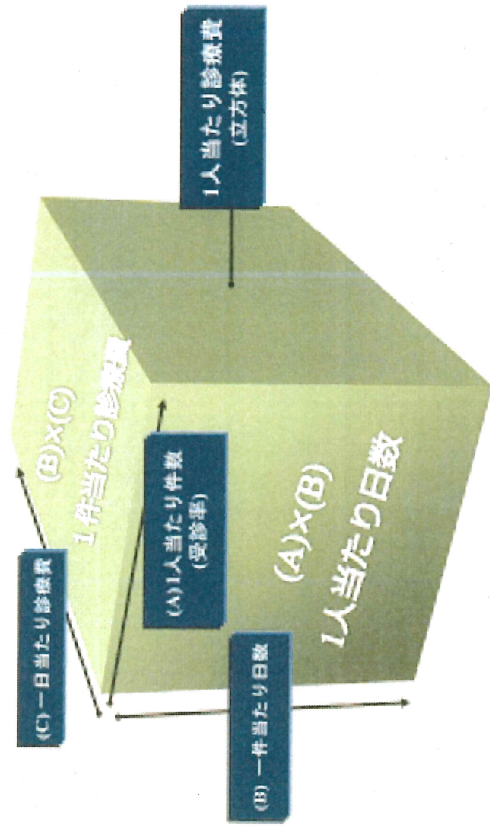
・受診率は、主に医療を受ける側の受診動向や感染症の流行などの疾病構造等に依存しやすいと考えられます。

・1件当たり日数は、患者が一定期間内に同一の医療機関に通った平均的な日数（または、入院した日数）を表し、診療実日数をしべト枚数で割ったものです。入院の1件当たり日数が多ければ、概ね入院期間が長く、入院外の1件当たり日数が多ければ、通院頻度が高いものと考えられます。

・1件当たり日数は、患者の受診動向や疾病の種類、並びに、医療機関における診療行為など、医療を行ける側による要因、並びに、医療供給側による要因の両方の影響を受けやすいと考えられます。

・1日当たり診療費は、医療費の単価を表し、診療費を診療実日数で割ったものです。1日当たり診療費が高いということは、1回の診療あるいは1日の入院でかかる費用が高いということです。

・1日当たり医療費は、医療供給側の診療行為などの要因に依存しやすいと考えられます。



受診率	医療需要側(患者)に関する要因	医療供給側(医師、医療機関)に関する要因
1件当たり日数	健康度 症状の程度 受診意識	医療機関数 医師数 病床数
1日当たり医療費	疾病構造 症状の程度 受診意識	診療行為

I：感染症及び寄生虫症	
0101	腸管感染症
0102	結核
0103	主として性的伝播様式をとる感染症
0104	皮膚及び粘膜の病変を伴うウイルス性疾患
0105	ウイルス性肝炎
0106	その他のウイルス性疾患
0107	真菌症
0108	感染症及び寄生虫症の続発・後遺症
0109	その他の感染症及び寄生虫症
II：新生物<腫瘍>	
0201	胃の悪性新生物<腫瘍>
0202	結腸の悪性新生物<腫瘍>
0203	直腸S状結腸移行部及び直腸の悪性新生物<腫瘍>
0204	肝及び肝内胆管の悪性新生物<腫瘍>
0205	気管、気管支及び肺の悪性新生物<腫瘍>
0206	乳房の悪性新生物<腫瘍>
0207	子宮の悪性新生物<腫瘍>
0208	悪性リンパ腫
0209	白血病
0210	その他の悪性新生物<腫瘍>
0211	良性新生物<腫瘍>及びその他の新生物<腫瘍>
III：血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	
0301	貧血
0302	その他の血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害

IV：内分泌、栄養及び代謝疾患	
0401	甲状腺障害
0402	糖尿病
0403	脂質異常症
0404	その他の内分泌、栄養及び代謝疾患
V：精神及び行動の障害	
0501	血管性及び詳細不明の認知症
0502	精神作用物質使用による精神及び行動の障害
0503	統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害
0504	気分〔感情〕障害（躁うつ病を含む）
0505	神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害
0506	知的障害<精神遅滞>
0507	その他の精神及び行動の障害
VI：神経系の疾患	
0601	パーキンソン病
0602	アルツハイマー病
0603	てんかん
0604	脳性麻痺及びその他の麻痺性症候群
0605	自律神経系の障害
0606	その他の神経系の疾患
VII：眼及び付属器の疾患	
0701	結膜炎
0702	白内障
0703	屈折及び調節の障害
0704	その他の眼及び付属器の疾患

VIII：耳及び乳様突起の疾患	
0801	外耳炎
0802	その他の外耳疾患
0803	中耳炎
0804	その他の中耳及び乳様突起の疾患
0805	メニエール病
0806	その他の内耳疾患
0807	その他の耳疾患
IX：循環器系の疾患	
0901	高血圧性疾患
0902	虚血性心疾患
0903	その他の心疾患
0904	くも膜下出血
0905	脳内出血
0906	脳梗塞
0907	脳動脈硬化（症）
0908	その他の脳血管疾患
0909	動脈硬化（症）
0911	低血圧（症）
0912	その他の循環器系の疾患
X：呼吸器系の疾患	
1001	急性鼻咽喉頭炎[かぜ]＜感冒＞
1002	急性咽喉頭炎及び急性扁桃炎
1003	その他の急性上気道感染症
1004	肺炎

1005	急性気管支炎及び急性細気管支炎
1006	アレルギー性鼻炎
1007	慢性副鼻腔炎
1008	急性又は慢性と明示されない気管支炎
1009	慢性閉塞性肺疾患
1010	喘息
1011	その他の呼吸器系の疾患
XI：消化器系の疾患	
1101	う蝕
1102	歯肉炎及び歯周疾患
1103	その他の歯及び歯の支持組織の障害
1104	胃潰瘍及び十二指腸潰瘍
1105	胃炎及び十二指腸炎
1106	痔核
1107	アルコール性肝疾患
1108	慢性肝炎（アルコール性のものを除く）
1109	肝硬変（アルコール性のものを除く）
1110	その他の肝疾患
1111	胆石症及び胆のう炎
1112	脾疾患
1113	その他の消化器系の疾患
XII：皮膚及び皮下組織の疾患	
1201	皮膚及び皮下組織の感染症
1202	皮膚炎及び湿疹
1203	その他の皮膚及び皮下組織の疾患

X III：筋骨格系及び結合組織の疾患	
1301	炎症性多発性関節障害
1302	関節症
1303	脊椎障害（脊椎症を含む）
1304	椎間板障害
1305	頸腕症候群
1306	腰痛症及び坐骨神経痛
1307	その他の脊椎障害
1308	肩の傷害<損傷>
1309	骨の密度及び構造の傷害
1310	その他の筋骨格系及び結合組織の疾患
X IV：腎尿路生殖器系の疾患	
1401	糸球体疾患及び腎尿管間質性疾患
1402	腎不全
1403	尿路結石症
1404	その他の腎尿路系の疾患
1405	前立腺肥大（症）
1406	その他の男性生殖器の疾患
1407	月経障害及び閉経周辺期障害
1408	乳房及びその他の女性生殖器の疾患
X V：妊娠、分娩及び産じょく	
1501	流産
1502	妊娠高血圧症候群
1503	単胎自然分娩
1504	その他の妊娠、分娩及び産じょく

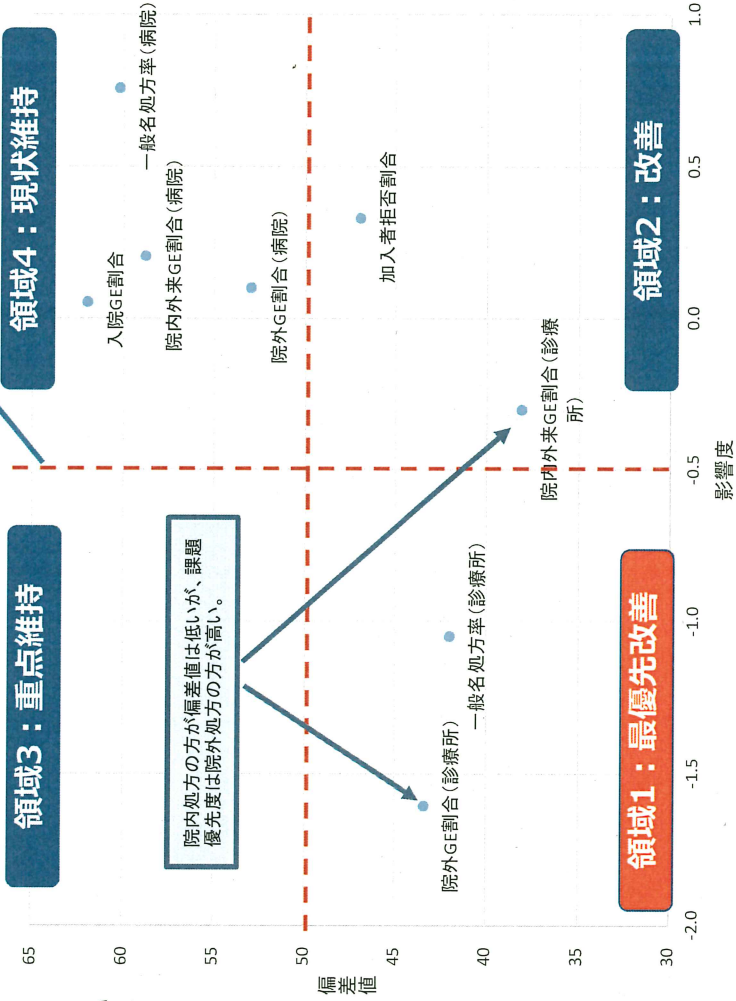
X VI：周産期に発生した病態	
1601	妊娠及び胎児発育に関連する障害
1602	その他の周産期に発生した病態
X VII：先天奇形、変形及び染色体異常	
1701	心臓の先天奇形
1702	その他の先天奇形、変形及び染色体異常
X VIII：症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	
1800	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの
X IX：損傷、中毒及びその他の外因の影響	
1901	骨折
1902	頭蓋内損傷及び内臓の損傷
1903	熱傷及び腐食
1904	中毒
1905	その他の損傷及びその他の外因の影響
X X II：特殊目的用コード	
2210	重症急性呼吸器症候群[SARS]
2220	その他の特殊目的用コード

戦略マトリックスの使用例

比較的成绩は良いが、マイナス影響が大きい領域。偏差値の水準を保つよう注意する。

成績が悪く、マイナス影響も大きい領域。最優先で改善が必要。

象限分割は、地域平均、あるいは全国平均(つまり偏差値50、影響度0)など、伝えるべきメッセージに応じて使い分ける。



領域4: 現状維持

領域3: 重点維持

院内処方の方が偏差値は低い、課題優先度は院外処方の方が高い。

領域2: 改善

領域1: 最優先改善

比較的成绩が良く、マイナス影響も小さい領域。現状を維持すれば十分と考えられる。

成績が悪いが、マイナス影響は比較的小さい領域。最優先ではないが改善が必要。